上毛新聞　平成28年7月9日（土曜日）社会面

毛　新　聞　（第三種郵便物承認）

「悲惨さ伝えたい」

日航機墜落事故

東京福祉大 田口教授 自作の鎮魂曲で授業

1985年の日航ジャンボ機墜落事故で犠牲になった520人と遺族らの悲しみを歌った混声合唱組曲「御巣鷹山に祈る」の作曲家で、東京福祉大教授の田口雅夫さん(68)＝東京都＝が、伊勢崎市の同大キャンパスで事故をテーマに授業する。今春から本県勤務となったことをきっかけに、事故の風化を防ごうと企画した。田口さんは「事故の悲惨さや命の大切さを伝えたい」と話している。

田口雅夫さん

組曲は事故で亡くなった客室乗務員の波多野京子さん＝当時(24)＝の大学時代の恩師、故・須藤久幸さんの詞に田口さんが曲を付け、1991年に東京都内で披露した。

田口さんと須藤さんは楽曲制作を一緒に手掛けた仲で、教え子の死を悲しむ須藤さんに田口さんが鎮魂の曲をつくることを提案した。須藤さんの詞にあった「京子さん」を「友」に変えるなどして、犠牲者全員にささげる5部構成の曲に仕上げた。

初披露したコンサートをきっかけに、遺族でつくる8・12連絡会の美谷島邦子事務局長と交流するようになった。田口さんは「自分ができる範囲でライフワークとして事故を伝えていく」と美谷島さんに約束したという。

その後、言葉通りに東京都や埼玉県でコンサートを開いた際に組曲を披露した。4月から事故現場のある本県で働くようになったことで「風化させまい」との思いが強まり、初めて授業で取り上げることにした。

11、15の両日に受け持つ音楽の授業で、組曲の一部を聞かせて歌詞や曲の構成を説明するほか、事故現場の写真などを見せながら、当時感じたことを伝える。

保育士を目指す学生を中心に計約50人が受講する。

田口さんは「事故の事実を伝えるだけでなく、作曲家として音楽に託した事故の悲惨さ、再発防止への思いを感じてもらいたい」と話している。